

平成 27 年度 第 1 回 河川整備計画検討委員会 議事要旨

日時：平成 27 年 9 月 4 日(月)13：45～16：20、場所：松江商工会議所 1 階

出席者：別紙出席者名簿のとおり、 報道：無し 傍聴者：無し

報告事項

- ・斐伊川水系中流支川域川づくり検討委員会について（報告事項資料）
- ・松江堀川水環境協議会について（報告事項資料）

議 事

静間川河川整備基本方針について

- 別紙 会議次第（1）～（6）について（資料 1～資料 6）各々順に事務局より説明

質 疑

資料 - 2

- ・高水検討結果については妥当と思われる。

資料 - 4

- ・現時点で 10 年に一度の濁水流量（現況流量）は維持流量を満たしておらず今後の課題ということでしょうか。
（事務局）今後の課題として考えています。

資料 - 5

- ・基本方針本文の構成やまとめ方が、従来の他流域でのものから何か変わっているのか。
（事務局）前回県で他流域の基本方針を策定してからかなりの年度が経過しており、現在は環境調査等の内容が多くなっている。

全体を通じての総括質疑

- ・ナゴヤサナエの調査について見つからなかったということだが、生存がないという結論にならないように。また、シロチドリの状況を教えてほしい。
（事務局）5 - 6 つがいが確認された。産卵場を 1ヶ所、雛を連れた親鳥を 1ヶ所確認している。
河口部が浜に幅があり、繁殖しやすい。毎年繁殖ではないとも思うが、ほかの場所からでも飛来する場所である。砂州を代替地に移転できれば良い。底生生物も多々いる。シギ等も繁殖以外では利用していると考えられる。
- ・繁殖の時期を外した点の一つではあるが抜本的な対応も検討として必要。
（事務局）砂州の維持管理は地元の用排水関係の要望で、必要な年は掘削している。また、過去の洪水でフラッシュしていることを確認している。今後も、治水上支障のない

よう、砂州の管理を行う。

- ・環境保全措置について。掘削で消失する群落面積が大きい。一部代替の引き堤はわずかな面積。野鳥にとっても負担が大きい。ワンドもなくなるのは良くない。
（事務局）計画上感潮区間は高速道等もあり引堤が難しい。実施段階では、一律に掘削するのではなく、掘削の形状等も考慮し多自然川づくりにも努めたい。
- ・天然遡上のアユはどの程度か。
静間川へのアユの遡上数は実際の個体の目視カウントではなく、苔のはみあとの被覆度調査からの推定です。2012年度は1万匹を超えていたと推定されますが、以降減り続け、2015年は2000匹を下回ると推定されます。それぞれ7月頃の調査です。
- ・カマキリは回遊魚か？ 正式名称にするなど表現を工夫したほうが良い。
（事務局）一般にはアユカケと呼ばれている。表現は工夫したい。
- ・資料の写真等は場所の美しさが良く表現されておりよい。
- ・（委員長総括）本日は資料が多かったが、次回委員会へ向けて随時委員の皆様から意見を頂くこととし、次回委員会の審議に繋げることとしたい。